

大好きな野球を通じて、自ら物事に取り組み自主性と仲間と協力し合える力を育む

千葉県立船橋古和釜高校

●千葉県立船橋古和釜高校 野球部の取り組み 概要

監督を務める矢口博之先生が2011年度に同校に赴任した当初は、部員はわずか5人しかおらず、大会の時には他の運動部の部員の助けを借りて試合に臨んでいた。そうした中、荒れていたグラウンドを整備し、徐々にチームの強化を図っていった。13年度には、前任校の津田沼高校で野球部監督を務めていた望月正彦先生が同校に赴任し、野球部部长に就任。現在の体制が整う。今年は、2年生9人、1年生8人、マネージャー2人で、強豪校も多い千葉県予選を戦う。

指導方針としては、生徒たちの自主性を育むことで、自分で考えて練習

習や試合に取り組みむことが出来るチームづくりを目指している。また、「文武両道」を掲げ、野球部の活動と勉学の両立を大切にしている。

自主性を育むための取り組みとして、生徒が自分の気付きや考えたことを記入する「野球ノート」の活用、毎週月曜日に行う読書会などがある。また、生徒の学習意欲の向上を図るため、校内の漢字テストにおいて野球部としての目標点数を設定し、全員で学習に取り組みむといったことも行っている。

「今のチームは確実に力が付いてきている」と望月先生が語るように、14年秋季千葉大会2次予選では、夏の県大会準優勝校を相手に0対4と善戦。今後の飛躍が期待される。

生徒が語る 1



千葉県立船橋古和釜高校
2年生
山口信之
やまぐち・のぶゆき

自分の成績だけでなく、チームや仲間のことを考えられるようになった

ノートで課題を整理し、主体的に練習しています

なぜ生徒が自主的に出来ているかというと、「野球ノート」の存在が大きいと僕は思います。

船橋古和釜高校野球部は楽しく野球が出来るチームです。中学校までは、ミスをする監督からすごく怒られたので、「ミスをしないように」ということばかりをいつも気にしていました。でも今は、「人間は成長のためには、時には挑戦をして失敗することも大切だ」ということがチーム全体の考え方なので、思い切ってプレーが出来ます。

僕らが伸び伸びと練習や試合に臨めるのは、部長の望月先生や監督の矢口先生が、生徒の自主性を尊重してくれているからです。生徒も一人ひとりが目標を持って、自主的に練習に取り組みむことが出来ています。

チームでは、それぞれが試合や練習の時に気付いたことを、自分の野球ノートに書くようにしています。僕の場合、初めは数日に1回のペースでしたが、途中からは毎日書くようになりました。頭の中だけで考えたことはすぐに忘れてしまうけれど、書いておけば忘れてしまっても、書いておけば忘れても読み返せます。書くことで課題や目標が明確になり、練習や試合もテーマを持って取り組めるようになります。

ノートに書く内容も、1年生の頃と比べると成長したと思います。最初は自分の成績や技術的なことばかりを書いていましたが、今は精神的なことや、チームのことをたくさん



千葉県立船橋古和釜高校

◎生徒の適性を考えた進路実現を目指し、「キャリア教育」の充実と「学び直し」に力を入れている。1年次は全ての科目において少人数授業を実施。社会で求められるスキルや基礎・基本の習得を図る。2015年度より、千葉県の「地域連携アクティブスクール」として、自立した社会人の育成に更に注力する。

◎1980（昭和55）年設立。全日制／普通科／共学。1学年約200人。2013年度卒業生のうち、大学・短大への進学は約17%、専門学校は約36%、就職は約33%。2014年度入試では、日本大、麗澤大、千葉工業大などに延べ26人が合格。

〒274-0061 千葉県船橋市古和釜町 586

<http://www.chiba-c.ed.jp/funabashikowagama-h/>

ん書くようになりました。副キャプテンになったからかもしれないませんが、自分のことだけを考えていたら、チームは強くないだろうし、自分も成長できないと思うのです。僕のポジションはピッチャーなのですが、今はひじをケガしているの

で、先生に申し出て、去年の9月から投球練習はやめています。秋の大会には、セカンドで出場しました。でも、焦る気持ちはありません。大切なことは、高3の夏の大会でベストな状態で投げられるようにすることだからです。今は下半身を鍛え

るための走り込みや、ケガをしない体をつくるための柔軟性を高める運動に力を注いでいます。夏までの個人的な目標は、145キロのボールが投げられるようになることです。そのためには今何をすべきかを考えながら、練習に取り組んでいます。将来の夢は、大学でも野球を続け、

社会人になってからも野球に関係する仕事に就くことです。でも、まずはその前に、残り少なくなった高校生活を1日1日充実したものにすることが大事です。このチームには手応えを感じています。仲間たちと一緒に悔いを残すことなく、野球をやり切りたいと思っています。

生徒が語る 2



千葉県立船橋古和釜高校
1年生
高橋 優人
たかはし・まさき

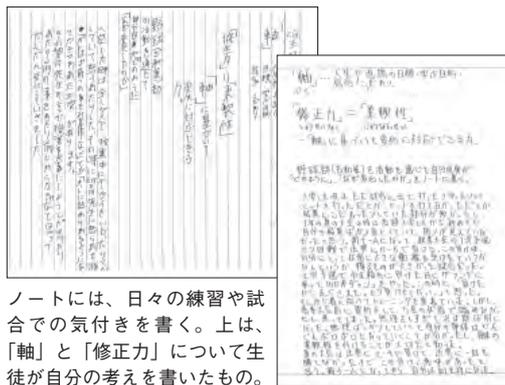
野球がうまくなりたいた
だから勉強や生活もおろそかにしない

試合で満足できるのは
日々の練習を頑張った人です

山口先輩も話していましたが、うちの野球部はすごく自由で、部長の望月先生や監督の矢口先生も、生徒の自主性に任せてくれます。でも、自由を与えられているからといっ

て、好き勝手にやっているというわけではありません。みんなどうすればチームが強くなるかを考えながら野球に取り組んでいます。

僕にとって大きいのは、ミーティングの時に先生が野球や人生に関するいろいろな話をしてくださることです。特に印象に残っているのは、



ノートには、日々の練習や試合での気づきを書く。上は、「軸」と「修正力」について生徒が自分の考えを書いたもの。

望月先生の「野球の神様はちゃんと見ている」という話でした。例えば、グラウンドにゴミが落ちていた時に、面倒くさがらずにそのゴミをちゃんと拾うことが、野球の向上につながる」と望月先生は言います。

これはすごく納得できる話でした。うちのチームでは、グラウンドをトンボで整えた後には、地面にトンボを静かにきれいに置くことを大切にしています。なぜなら、トンボを雑に置くことが習慣になっている人は、野球のプレーも雑になるものだからです。心と体はつながっているし、ある行動は他の行動ともつながっています。僕はもともと野

球がうまくなりたい。そのためには、野球以外の場面での意識や行動も変えていかなければいけないと思うようになりました。

例えば、風呂に入る時は、しっかりと湯につかって疲れを取ることを意識しています。夕飯の時は、「これが自分の体をつくるものになっている」と考えながら食べています。

勉強に向かう姿勢も変わりました。僕は中学生の時は勉強が嫌いで、「早く授業が終わって家に帰りたい」と考えてばかりいました。でも今は、

授業をいい加減に受けている人は、野球の練習もいい加減になると思っています。だから勉強も頑張るようになり、この前の定期考査では学年2位になりました。「もし、野球部に

いながら勉強で1位になればすごいぞ」と思って、今はそれを目標に野球も勉強も頑張っています。

監督の矢口先生は、「野球で勝つことも大事だが、もっと大事なのは野球を通じて人生の勝利をつかむ力を付けることだ」と言います。

野球の1試合は2時間ぐらいで終わります。けれども、その2時間の試合で「本当によく頑張った」と満

足できるかどうかは、毎日の練習にどれだけ真剣に取り組めたかに懸かっていると思います。試合はその集大成の場です。たぶん人生も同じです。毎日を大切に生きるからこそ、自分の人生に満足できるのだと思

教師が語る



千葉県立船橋古和釜高校
望月正彦 もちつき・まさひこ
教職歴29年。同校に赴任して2年目。1学年主任。

生徒の心の中に眠っている自主性を 野球を通してうまく引き出してあげたい

「野球ノート」で書く力と 考える力が深まります

私には理想の野球部像がありません。それは昔の野球少年のように、ただ純粹にみんなで野球をすることが楽しくて、もつとうまくなりたくて、みんなで考えたり工夫したりしながら、日が暮れるまでボールを追い掛けているようなチームです。そういうチームをつくるためには、生徒が進んで練習に取り組むような自

ます。矢口先生の言う「人生の勝利をつかむ」とは、そういうことなのではないかと思っています。

この野球部に入ってから、僕の野球や人生に対する考え方が、本当に大きく変わりました。

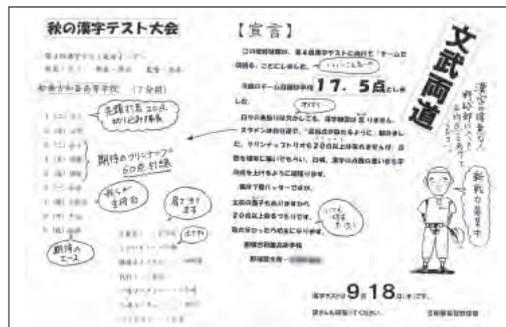
自主性を育むことが不可欠です。

野球部に入部してくる生徒のほとんどは、好きな野球には自主的に取り組む力を持っていると思います。ところが、そんな生徒の自主性を指導者が潰しているケースが少なからずあります。少年野球でも、「さあ、アップしろ」「次はキャッチボールだ」といった指示に、ただ子どもが従っているだけというチームがたくさんあります。ミスをするとか叱られるので、子どもは大人の顔色をうか

がうばかりになってしまいました。私が野球部でやろうとしていることは、とても単純なことです。生徒の心の奥底に埋もれている「野球が好き。野球がうまくなりたい」という思いを引き出すことです。それが出来れば、生徒は、自主的に野球に取り組むものだと思います。

野球部では、生徒一人ひとりに「野球ノート」を持たせて、試合や練習の時に気付いたことを書かせています。教科の作文の課題には拒否反応を示す生徒も、野球のことなら自分やチームのことを振り返って一生懸

資料 校内の漢字テストに野球部として挑む



野球部では、日々の学習も重視する。部員が一丸となってテストに挑む様子を校内に伝える、望月先生作成の掲示物。

命書こうとします。生徒が書いたものに対しては私もコメントを返します。そのやりとりを繰り返すうちに、考える力がどんどん付いていきます。

また、毎週月曜日には読書会を開いています。生徒は、アスリートが自分の生き方や考え方を書いた本を読み、心に残った言葉を野球ノートにメモします。他者の生き方を知ることが、生徒にとって自身の生き方を見つめ直すことにつながります。

そのように自主的に野球に取り組む姿勢を育むうちに、自分の生き方にも、自主性を持って向き合える生徒が増えていくと思うのです。

自分たちで流れを変える力が付いてきました

私は、野球は「見るスポーツ」だと思っています。チームの攻撃中、みんなはベンチに座ってバッターの様子を見ます。守りの時には、ピッチャーが投げる様子をバックで守備陣が見守ります。そして気が付いたことがあったら、お互いに声を掛け

合って確認します。だからこそ、他の選手の好プレーを、自分のことのように喜ぶことが出来るのです。

けれども最近は、自分のプレーだけに集中する子、自分の役割さえ果たせばよいといった感覚でプレーしている子が増えていると感じます。

そこでうちのチームでは、ノックを受けている選手に対して、「良い形だよ」、「もっと低く」と、生徒同士で指摘をし合うようにしています。ノッカーに対しても、「良いボールを打っているよ」といった声が飛びます。うちの生徒は、声掛けがともうまいのです。

自分のことだけでなく、仲間やチームのことに意識が向けられるようになれば、試合でピンチを迎えた時でも、生徒の行動が変わってきます。「どうもみんな表情が硬くなっているぞ」と気付いた生徒が、わざとドジなことをやってチームの雰囲気や和ませるなど、悪くなりかけた試合の流れを、自分たちで変えることが出来るようになるのです。うちの生徒たちも、だいたいその力が付い

てきたと感じます。

私は、生徒たちの自主性を育むことも大事ですし、仲間と協力しながらチームとして物事に取り組んでいける力も大事だと思っています。どちらの力も身に付けさせることを意識しながら指導しています。なぜなら、その2つの力こそが、これから彼らが自分の人生を歩んでいく上で軸になると思うからです。

